

ハイキング部だより

第139回

平成27年(2015年)5月10日(日) ～ 当麻寺の牡丹と竹内街道

二上神社口駅～道の駅「ふたかみパーク当麻」～石光寺～傘堂～中将姫墓塔～当麻寺～史跡の丘～綿弓塚～相撲館～当麻寺駅(約7キロ)

参加者 25名

新緑がまぶしい五月晴れの下、25名の参加で第139回ハイキングを実施しました。今回、益田出身の中間さん、岩本さんがはじめて参加してくれました。石光寺の牡丹は、すでに花が散っており400円の入園料は半額にして欲しいところでしたが、芍薬が少しだけでしたが咲いていたので堪忍しました。当麻寺では国宝の本殿にお参りし、日本最古の梵鐘と石灯籠を拝見しました。この後1400年の歴史を持つ竹内街道を歩き、予定では磐城駅解散でしたが、野見宿禰ゆかりの相撲館を経て当麻寺駅まで歩き15時過ぎ解散しました。



第139回ハイキングは下記の計画で実施しました

～ 当麻寺の牡丹と竹内街道 ～

日時：平成27年5月10日(日) 午前10時 近鉄南大阪線「二上神社口駅」集合
コース：二上神社口駅～道の駅「ふたかみパーク当麻」～石光寺～傘堂～
中将姫墓塔～当麻寺～史跡の丘～綿弓塚～磐城駅(約7キロ)

今回は奈良県の中西部に位置し、葛城山や二上山など豊かな自然に抱かれた葛城市を訪ねます。

当麻というところは、当麻氏の一族が支配していた土地で、難波と飛鳥を結ぶ交通の要衝であり、日本最古の官道・竹内街道が今でも当時の面影を残しています。シルクロードの終着駅といわれる奈良に向う朝鮮からの使者の休憩所だったと考えられています。

当麻寺(たいまでら)は612年、聖徳太子の弟麻呂子親王が創建したと伝えられており、真言宗と浄土宗の2宗派が並立している余り例のない寺です。奥の院に咲く約80種類3000株の牡丹が見頃でしょう。中将姫が当麻曼荼羅を織る際に使った蓮糸を、この寺の井戸で五色に染め上げたという由緒を持つ別名「染寺」、石光寺(せっこうじ)を訪ねます。

★ 中将姫(ちゅうじょうひめ)伝説について

中将姫は、藤原鎌足の曾孫右大臣藤原豊茂の娘。中将姫5歳の時母が死亡、7歳の時父が後妻を迎える。中将姫は、美貌と才能に恵まれ、9歳の時には孝謙天皇に召し出され、百官の前で琴を演奏し賞賛を受ける。しかし、継母に憎まれ虐待を受ける。16歳の時、淳仁天皇より後宮へ入るよう望まれるがこれを辞す。その後二上山の山麓にある当麻寺へ入り尼となり法如という戒名を授かる。26歳で長谷観音のお告げにより、当麻曼荼羅を織り上げる。佛行に励んで徳によって仏の助力を得て、一夜で蓮糸で当麻曼荼羅(観無量寿経の曼荼羅)を織ったとされている。





当麻寺本堂



傘堂



石光寺



竹内街道



中将姫の墓塔



綿弓塚 (わたゆみづか)